



1969年3月5日 (第三種郵便物認可)

号外 1部 3円

発行所 東京都豊島区池袋 2-11-2 白石ビル 怒濤社 電話(982)3312 振替東京147121 編集発行人 中川進 20回400円(郵共)

# 日米軍事同盟とその維持に対する

## 革命的プロレタリアートの闘争方針

労働者 共産主義 委員会

七〇年代世界・日本階級闘争の任務は、政治的任務、世界革命・世界プロレタリアの統一、世界革命プロレタリアの結集、強化、公然たる登場をおし進める事である。

治的介入への急速かつ大胆な展開、沖繩返還の一体化、自衛隊の強化、日米軍事同盟の再編および労働者人民の分断・抑圧を背景にした国防への統合にその基軸があり、国民・民族なるものに対する態度が、根底的に問われるがゆえに、何よりも、帝国主義の後進国人民に対する抑取・収奪・抑圧・略奪・窮乏・屈辱の強化、侵略的左翼分派の登場、国内的に階級人民の分断・抑圧に対する闘争、および、かかるいむべき現実を維持している政治国家や軍事同盟そのものに対決していく政治闘争を、国際主義的闘争の内実として、強固に組織するのだけではない。

まず第一に、資本家階級の労働者階級上層の買収と国防への統合の進展、日本共産党の社会愛国主義・議会議場への転落と伸張に示される如く、労働者階級の体制への統合が進み、第二に、資本による労働の支配の強化・分断、利潤追求による社会的矛盾、インフレによる収奪などの矛盾が深まりつつあるが、部分的であり社会改良主義的な性格を持っており、政治闘争への結合の条件は未成熟であり、第三に、侵略的左翼の展開が、帝国主義軍隊の形成・買収と分断・ナシヨナリズムへの統合と進んでおり、従って、国防主義、小ブル平和主義、社会愛国主義を粉砕し、抑取・収奪・分断・侵略

反革命に対決する闘争、政治権力に対決する闘争を集合・デモ・ストライキとして組織し、プロレタリア革命派の公然たる登場と結集を強化し、同時に、軍事の準備を進めていくのでなければならぬ。

第一に侵略を内乱へというものは、侵略を政治的延長としての軍事としてとらえていないのなら経済主義であり、戦争だと把握するならばそれは今日の日本の対応にたいする分析の誤りだといわなければならない。

第二に、フントの場合も同様であるが、さらに恒常的武装闘争というものは、ストやデモ、遊撃戦、正規軍のいずれでもないとしたら全くアイマイであり、必ず破産するであろう。

内乱とか、戦争とか、あるいは恒常的武装闘争とかを呼号するのではなく、何よりも侵略的左翼、国内労働者の分断に対決し、ナシヨナリズムを打ち破り、プロレタリア

国際的には、ソ連共産党の平和共存、平和革命路線の右翼的修正、中国共産党の人民民主主義武装革命の推進、急進民主主義共産主義的左翼分派の登場、国内的には、小ブル平和主義の分解反共国防主義の胎動と日共の社会愛国主義への転落という、現在急速に進展している事態は、共産主義者に対して何よりも、プロレタリアートの第一の政治的任務をいささかの曖昧さも残さず提起する事を要求している。これに敵対しこれを曖昧にするものは、労働者階級の任務をひくめ、狭まめる者だと言わねばならない。

日帝の七〇年代における階級攻勢は、アジアへの経済的進出、政

世界革命の任務を明確にし、政治闘争を組織し、プロレタリア革命派の登場、結束、強化を進め政治的抑圧への対決を強めつつ、軍事の準備をおし進める事が要求されている。

集会・デモにおいて、昨年十月以来の「安保非常体制」の弾圧に對して、一切の合法主義を打ち破り、ブルジョア国家権力、ブルジョア権力を粉砕せんとする立場から、政治的抑圧と機動隊とに対決し闘うのでなければならぬ。かかる実力闘争は、合法の枠を破るとか、実力闘争を波及させるとかいう力学主義的な闘争であってはならない。機動隊の圧倒的強化と一切の闘争に対する暴力的鎮圧、党派の破壊のための長期拘留、実刑判決、スパイの育成、という攻撃が展開されている。機動隊との公然たる戦闘と反弾圧・政治警察との闘争を分離し、別個に軍事を準備することによって、権力の打倒への準備をすすめるべからぬ。

かかる闘争がより広汎な労働者階級人民の闘いとなり、決戦のための配置に近づき武装蜂起と結合するために何よりも闘争に参加した者はもちろん、多くの革命的労働者、学生が「共産主義」に強固に組織されねばならない。

かかると組織のためには、今日中ソ共産党・スターリン主義・国防主義、社会愛国主義との闘争、および綱領で結合された党のための理論闘争が決定的におし進められなければならない。わが共産党はそのような任務のために

に全力を尽す決意であり、その一つとして、四・二八、五・二八・二九の闘争は、かかるプロレタリア革命派の結束強化と公然たる登場をおし進めるための闘争として組織し闘い抜いたのであり、六月闘争をも断固として闘い抜くであろう。

我々の闘争は、支配階級に対する被支配階級としての闘争であって、過渡的要求による組織作り路線とは根本的に異なるのである。

現在の日本階級闘争と共産主義者に問われている任務を果すものとして、六月における闘争を組織し革命的に闘うことが要求されている。

インドシナにおける侵略的左翼革命の拡大、日帝のそれへの支持、加担および東南アジアへの経済進出と政治的介入の新たな展開、在日外国人の差別・抑圧の強化、72年沖繩返還の一体化政策・自衛隊の強化の策動が、日米会談「日米共同声明」ののちおし進められ、かかる日米同盟主義的の侵略的左翼の展開のために72年六月、安保条約の運用の自動延期の下に、日米安保条約の自動延期・日米軍事同盟の継続を強行せんとしている。これに対してプロレタリアートは、如何なる態度をとる、如何に闘うべきかを鮮明にする事を要求されている。

昨年「日米共同声明」において、72年による沖繩の日米帝国主義者の共同侵略的基地化、安保条約の事前協議の積極的運用によって、「韓国」台湾に対する米軍の直接

送達を認める事を確認し、台湾・韓国の人民に対する抑圧を行うことを宣言し、三尖作戦その他、あるいは、国会を併呑自衛隊の海外派兵は当然の如く、計画され合法視されている。

赤軍派ハイジャックに対する日米三軍の弾圧、作戦は、三國軍隊の結合が出来上っている事を教えている。

六五年以来のベトナム・インドシナ革命戦争において、沖繩基地はもろろんのこと、安保条約とその付随協定、法的根拠として、在日米軍基地が後方基地として機能し、そのための施設、物資、区域が提供されてきた。日米会談「日米共同声明」は、沖繩返還をテコに「韓国」台湾・極東にたいする日本からの直接的な軍事革命を承認したのであり、これは東南アジア全域への日帝の自前の軍隊による国際的左翼革命にたいする第一歩を踏み出したものであり、かかる確認こそ、今年に入ってから、ますます展開されているアジア会議、東南アジア閣僚会議、アスバックにおける経済援助の約束や政治的イニシアティブの掌握への踏み台だったのである。

安保自動延長、日米軍事同盟の継続強行とその再編、自衛隊の強化、沖繩返還・侵略的基地化の維持強化の策動は、帝国主義のアジア支配の維持、侵略・反革命、後進国人民にたいする抑取・収奪、抑圧・弾圧を政治的、軍事的に保障するものであり、自衛隊の強化による国際的左翼革命への進出の策動によって、さらに再編されつつ、

【二面へつづく】

侵略的反革命的役割を果して行くといわねばならない。

日帝はアジア侵略反革命、米帝への加担、自衛隊の強化、日米軍事同盟の再編継続を、「日本が経済大団に成長し、世界の諸国家の中で有数の高める国になった。従って、それにあつて国防力を強化し、国家の安全保障を万全にし、さらにインドシナに平和をもたらすために、さらには、遅れたアジア諸国の発展のために、それ相応の援助をしなければならぬ」と語っている。

巨大独占体の形成が、労働者人民の搾取・抑圧の上に行われ、さらに搾取、支配を強め、分断統合

し、援助の名のもとに後進国支配階級と結託し、労働者階級を搾取、収奪、抑圧し、隷属、窮乏におとし入れる略奪・反革命を遂行し、かかる野望を保障し、後進国の階級支配専制国家の防衛のため

の軍事力の強化、軍事同盟の再編強化を国防力の強化とが国家の安全保障に万全を期すとか、アジアの安全と平和のために努力するとか主張しているのである。

だが、労働者階級にとって、かかる後進国人民にたいする侵略・反革命のための軍事同盟は不必要であり、われわれとプロレタリア

### 6・14を革命的に闘いぬぎ

### 6・15防衛庁、官邸へ

### 6・23政治ストを貫徹せよ！

### スケジュール

15日、23日 学生ストライキ

15日 防衛庁、官邸闘争 (PM五) 一港

区網代公園

18日 総評青対部決起集会 (PM六) 日比谷

19日 共戦集会 (PM六) 品川労政(予定)

20日 入管闘争 (PM一) 水産大

21日 総評統一行動

23日 ストライキで決起した労働者との交流 (前夜泊り込み)

安保自動延長反対

日米軍事同盟粉砕

日帝打倒、沖繩米軍打倒闘争

よって帝國主義軍隊の解体、条約の廃棄を遂行し、プロレタリア革命の結束、強化、登場を待ちたい。

かかる立場において、インドシナ侵略反革命、沖繩返還一体化政策、日米共同声明に反対し、日米軍事同盟、一切の軍事同盟に反対し、自動延長を弾劾し、日帝打倒、米軍打倒の政治スト、街頭デモを組織しなければならぬ。

昨年十一月の日米共同声明によって自動延長が確認され、六月十三日強行されんとしているのにたいして、プロレタリア革命派の

政治革命による軍事同盟の粉砕と自衛隊の解体、沖繩の侵略基地の解体、一切の侵略反革命の廃棄、ブルジョア国家の粉砕を宣言する

政治闘争の組織化にこそあるといわねばならない。

かかる闘争の組織化のために、は、何よりも中心に日米帝國主義のインドシナを中心とするアジア侵略反革命、沖繩の侵略基地化、安保自動延長、日米軍事同盟

継続、自衛隊の役割を全面的にバクシ、日米共同声明と日米軍事同盟に反対すべきこと、プロレタリア世界革命、世界ソヴィエト共和

和国樹立の一環としての米軍政・日帝打倒によってそれを廃棄する

必要があることを宣伝、煽動する

のだけではない。

かかる革命的な政治闘争にたいして敵対している反共益国防主義、社会愛國主義、小ブル平和主義を粉砕し、左翼経済主義・安保

粉砕政府打倒派と内乱派の誤謬を打ち破り、プロレタリア革命派の結束、強化、登場を待ちたい。

かかる立場において、インドシナ侵略反革命、沖繩返還一体化政策、日米共同声明に反対し、日米軍事同盟、一切の軍事同盟に反対し、自動延長を弾劾し、日帝打倒、米軍打倒の政治スト、街頭デモを組織しなければならぬ。

昨年十一月の日米共同声明によって自動延長が確認され、六月十三日強行されんとしているのにたいして、プロレタリア革命派の

政治革命による軍事同盟の粉砕と自衛隊の解体、沖繩の侵略基地の解体、一切の侵略反革命の廃棄、ブルジョア国家の粉砕を宣言する

政治闘争の組織化にこそあるといわねばならない。

かかる闘争の組織化のために、は、何よりも中心に日米帝國主義のインドシナを中心とするアジア侵略反革命、沖繩の侵略基地化、安保自動延長、日米軍事同盟

継続、自衛隊の役割を全面的にバクシ、日米共同声明と日米軍事同盟に反対すべきこと、プロレタリア世界革命、世界ソヴィエト共和

和国樹立の一環としての米軍政・日帝打倒によってそれを廃棄する

必要があることを宣伝、煽動する

のだけではない。

かかる革命的な政治闘争にたいして敵対している反共益国防主義、社会愛國主義、小ブル平和主義を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

を粉砕し、左翼経済主義・安保

世界分断が不可避であり、ブルジョアにたいして階級闘争の抑圧が必要である以上、国家が国家で

なくならない限り軍隊が必要であり、軍事同盟も結ばれるのである。それ故、非武装などというものは全くの幻想であり、中立などというものは、国際階級闘争の結合に

あって反動的極端以外のなものでもない。

共産党は、六八年一月の「わが党の安全保障政策」なる論文によって、中立武装、自衛を打ち出し

「わが党は戦後一歩として国家自衛の権利を否定したことはない」

などという国防主義の一大キャンペーンを展開し、党規約に「真の愛國主義」なるものを銘記せんと

するなど、ナショナリズムに屈服

し、社会愛國主義へと転落している。

一國社会主義にもとづく人民民主主義革命路線の必然的帰結

であり、プロレタリア国家主義、世界革命、国家の廃棄に敵対する

路線であり、徹底的に攻撃し、粉砕しなければならぬ。

彼らは、沖繩返還の枠内に入る

ことによって、日帝の沖繩人民支配、アジア進出拠点化、日米軍事同盟再編の道に屈服し、非武装中立の弱点を国民総抵抗「チェコ方

式」で補完せんとしたが、その無力性故に、右翼転換し、反安保闘争から自治体、公團闘争へと逃げる

ははじめている。小ブル平和主義の分解が、ナショナリズムへ集約

されることを許さないためにも、小ブル平和主義・非武装中立の反階級性、反動性をあばきだし、粉

砕しなければならぬ。

国民国家が並存し、独占による

階級闘争を必要としないのであり、それを廃棄するものとしてとり扱

うのである。プロレタリア革命における政治的・上部構造の破壊と同時に、それを粉砕するのだけではない。

新左翼は、安保条約を法的に表現する日米同盟が反革命軍事同盟であることを明確に把握すること

をせよ、革マル派を筆頭にプロレタリア革命派、社会愛國派などが安保粉砕、政府打倒を力学的に打ち出し、プロレタリアートの

権力奪取の任務と結合して、日米軍事同盟粉砕・軍隊解体の任務を提起することを回避し、反安保

闘争の大規模な六月安保決起を呼号したりしている。

中核派と同様である。日米共同声明粉砕、安保粉砕という任務において、軍事同盟粉砕・軍隊解体の任務が不明である。中核派

は六月決起を力学的に提起してきたが、侵略を内乱へなるスロ

ーカンを掲げ、排外主義との闘争内容をない労働者政治闘争の組織化に転換した。そのことにより決

戦反対、ハネナガリは弾圧するなどと語り、完全な大衆運動主義、

大衆操作主義、日和見主義に転落している。

プロレタリア革命は、自衛隊と結合した広範な共産主義的組織の形成、軍事の準備をおし進める

こと、諸闘争組織を再編強化すること、諸闘争組織を再編強化する

任務を遂行するためにすべての革命的労働者・学生は共産主義・共

産主義か？危機をねらひだしか？

を世界革命戦争へ」という発展段階論に陥ることによって、政治闘

争武装蜂起・権力奪取と戦争を混

同している。

かかる一切の誤った傾向を粉砕し、日米帝國主義の侵略反革命、

在日外国人の抑圧、差別、沖繩返還日米軍事同盟、安保自動延長に

反対し、日米軍事同盟粉砕、日帝打倒、米軍打倒の政治闘争を、

プロレタリア国際主義のもとに組織しなければならぬ。

学生はその先頭に立って、6・15、23にいたるストライキ、街頭デモを大学当局の抑圧、政治権力の抑圧をも廃棄すべきものとして

とらえ、それに対決して闘いぬかねばならない。労働者は、6・14、15、23闘争に総結束するため

に、バクロ・宣伝・煽動を任命的に組織し、民同の政治ストの内容を打ち破り、独自の内容でストライキを貫徹すべく闘い、職場やそ

の他で公然、非公然の政治集会を組織しなければならぬ。

6月14、23日にいたる10日間の闘争を断固として闘い抜くため、

六月闘争委員会をあらゆる学園、職場に組織しなければならぬ。

革命的な政治闘争の展開

労働者階級のなかに彼ら自身の地位と彼ら自身の任務との意識を

持ち込むこと、綱領で結合した党、労働者階級を支配階級に高め

ることのできる党、および、それと結合した広範な共産主義的組織

の形成、軍事の準備をおし進めること、諸闘争組織を再編強化する

任務を遂行するためにすべての革命的労働者・学生は共産主義・共

産主義か？危機をねらひだしか？

を世界革命戦争へ」という発展段階論に陥ることによって、政治闘

争武装蜂起・権力奪取と戦争を混

同している。

かかる一切の誤った傾向を粉砕し、日米帝國主義の侵略反革命、